



千葉労働運動

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222)7207 番

95.2.2 No.4135

戦95年を画する歴史

一九九五年は決戦の年である。決戦の枢軸をなす戦後五〇年攻撃、「分割・民営化一〇年目の総括評価」攻撃、それと軌を一にする清算事業団闘争―国鉄闘争解体攻撃、まさにひとつひとつの闘いが、日本の階級情勢の動向を左右する重要な環となつていふことを肝に命じなければならぬと言えぬ。

清算事業団闘争

の幕引き許すな

昨年「二・二四合意」―「二〇二億訴訟」の取り下げの意味が、国鉄闘争の幕引き、自民党・亀井による国労の取り込み・解体攻撃であるということをはつきりさせなければならぬ。そしてこの攻撃は、同時に、現在の「JR体制」を串刺しにしようという狙いを込めた攻撃である。

今までと全く構えの違う攻撃の性格が、戦後の諸関係の反動的決着という視点から見ていふこと、政治的には清算事業団闘争の收拾に焦点を当てた攻撃であることは間違いないところであり、国家総体の改造攻撃との攻防の最大の焦点であることとを再度決意しなおし、清算事業団闘争の幕引き攻撃を粉砕しなければならぬ。

働運動の進むべき道を、全労働者に提起しようではないか。

「一〇年目の総括評価攻撃」

基地統廃合攻撃粉砕の闘いへ!

昨年の一二月ダイ改に象徴的に表れてきた、「分割・民営化一〇年目の総括評価」攻撃との本格的な決戦になるのが、一〇年目の九七年を前にしての、この九五年であり、とりわけ次期ダイ改はこれをめぐる、貨物を軸とした大合理化―基地統廃合攻撃との対決が焦点となる。

その意味においては、「JR体制」の反動的再編攻撃との攻防戦はすでに始まっている。

新たな一〇万人首切り合理化―貨物「中長期経営計画」、JR東日本「五万人体制」合理化の行き着く先は、高齢者切り捨て、過労死に限りなく近づく極限的な労働強化、安全の徹底的な解体、営利優先による地方交通線のさらなる切り捨てへと進むのは必定だ。

まさに「去るも地獄、残るも地獄」、断じて許してはならない。国鉄労働運動の輝かしい闘いのすべてをかけて、この攻撃と対決し勝利しなければならぬ。

勝浦・船橋市議選の必勝を!

動労千葉組織内候補、船橋・中江市議の四選勝利へ、勝浦市議選に水野執行委員を押し立てて闘うことの意味は、JR内外をめぐる情勢激変に対し、動労千葉がこれまでの殻を破って、

地域・全国へうってでて、本格的な闘いの構えを作っていくこととの宣言である。

総評解体―「連合」の発足によつて、その地方組織が次々と解体されていく中で、今や労働者の結集軸となる組織そのものが消滅しつつある。また一方、社会党の路線転換・屈伏によつて革新勢力は払底状況にあるといつても過言ではない。

その中で、労働者・市民の声を代弁し、今日の「大失業時代の到来」に抗する勢力の結集こそが、最も求められている。

その先鞭をなし、地域において動労千葉の運動を浸透させ、共に闘いを作り上げ、包囲していくことの意味はきわめて大きい。動労千葉の議員団の創出へ向け闘いに起つ、水野・中江候補の必勝を勝ちとろうではないか。組織の全力量をここに注ぎこまなければならない。

「闘う労働運動の新しい潮流」

「全国にはばたこう」運動の

全面的な発展を勝ちとろう!

昨年の一年間を通して、全国三六箇所、各支部主催の県内七箇所の国鉄集会、その集大成として九・一八―一二・一八労働者集会の開催は、巨大のスケールを持った歴史の転換点ともいふべき、現在の情勢と対決する力をもった、闘う労働運動の新しい潮流を作りあげようという新たな挑戦であり、国鉄分割・民営化粉砕の闘いを通して貫

いた課題の実現に向け、その第一歩を踏み出した取り組みとして大成功を勝ちとった。

この取り組みの中で、われわれが実現を目指す、労働運動の新しい潮流の路線とは、①、大失業時代に抗する労働運動を! ②、反戦・反侵略―差別排外主義と対決する労働運動を! ③、国鉄闘争を水路に、連合路線と対決する労働運動をつくりだそう! ④、村山自社連立政権打倒! たたかう労働者の党をつくりだそう! ということであり、以上の「四つのスローガン」を骨子として闘いを推し進めるものであることを、全労働者に提起した。

九五年は、この「闘う労働運動の新しい潮流運動」をさらに大きく展開することだ。

このことは、全体情勢から国鉄情勢までを含め、戦後五〇年を契機として起こってくるさまざまな攻撃との対決において、何よりも重要な環となる。

戦略的闘いの根幹がここにある。全労働者にとつての結集軸となる闘いを通して、地殻変動を突き破る質量と容積を培っていかなければならない。

とりわけ戦後五〇年攻撃の最大の焦点となる、八月一日(戦後五〇年)を頂点として、憲法改悪阻止の闘い、社会の反動的転換を許さない闘いを積み上げ、労働運動の連合支配を下から揺るがす潮流の形成を勝ちとらなければならない。

九五年の闘いはすでに開始されている!